

II. 調査結果の分析

5. 調理の設備・調乳室等（表No.78～83）

5-1 調理設備の外に設置されている機器について、利用状況の調査である

	電子レンジ	オーブン	フライヤー	回転釜	電動野菜カッター	食器洗浄機	保存食用冷凍庫	食器消毒保管庫
計	71.4%	74.4%	18.9%	49.7%	46.1%	46.0%	89.2%	92.3%
公営	64.4%	68.7%	17.5%	55.9%	44.7%	26.1%	88.5%	90.6%
民営	78.4%	80.1%	20.4%	43.6%	47.5%	65.7%	90.0%	94.0%

未回答については公営 5.2%、民営 2.5%である。

全体的に地域区分別表や所在地区別表からも、利用状況に差はほとんど見られない。部分的に平均値からかけ離れた地域のための記述とする。

電子レンジとオーブンは便利さからであろう、全国的に平均して数値が高い。

フライヤーについては全体の平均値も低い、中でも北海道・東北地区は 7.5%（民営 2.4%）であり、都区部・指定都市と中都市の公営が一桁台の数値である。東海地区の民営 41.1%があり全国的に唯一 40%台である。

回転釜については北海道・東北地区は 21.4%と平均値 49.7%を半数以上割っている地域もあれば、東海地区の 69.9%と北信越地区の 76.7%もあり、回転釜については利用状況に地域差があることがわかる。

食器洗浄機については全国平均の表にもあるように公営の利用度が比較的に低い。北海道・東北地区 18.4%、北信越地区 21.6%、小都市Bにあつては 9.7%と最も低い数値になっている。食器消毒保管庫 92.3%、保存食用冷凍庫 89.0%は、危険率の高いO-157の話題性も利用度を加速させたのであろう、全国的な高い数値で設置されていることがわかる。

5-2 乳児室に隣接した調乳室及び離乳食配膳室の設置状況の調査である

	ある	ない	未回答
計	61.4%	19.7%	18.9%
公 営	52.1%	17.6%	30.2%
民 営	70.7%	21.8%	7.6%

60%を越えて配膳室が設置されていることがわかる。保育所の設置基準も緩和されてきてはいるが、こと食事に関する環境の整備については、小さい命を預かる立場から、衛生的かつ安全であることを願い、最低基準の規制に関わらず整備が進んでいるものと

考えられる。未回答の数值が余りにも多い。ないとも書けないし、配膳などの場として区分されていない実情もあって、回答に躊躇したのであろうか。

「ある」についての回答に、地域区分別には平均値を超える関東地区 76.9%、東海地区 71.4%、中国・四国地区 77.3%、九州地区の 73.5%がある。所在地区別表よると、都区部・指定都市は公営民営ともに 71.5%である。県庁所在市 78.3%、小都市 A 71.0%、町・村部 70.2%があるが、都区部・指定都市の公営を除いて、全てが民営の数值であることがこの設問では特徴として捕えることができる。

設備がないと回答した部分では、平均値を越える北海道・東北地区の民営が 34.5%を示しているのに対して、都区部・指定都市の公営では 6.3%と未回答も、22.2%と都区部・指定都市は同じ公営でも明らかな違いを示している。

5-3 ないと回答した施設に、それに代わる設備があるかの調査である

	ある	ない	未回答
計	72.1%	22.3%	5.6%
公 営	61.6%	30.4%	8.0%
民 営	80.6%	15.8%	3.6%

前述の未回答で表せなかった保育所であろう「代わるものならある 72.1%」と回答している。「それもない 22.3%」がある。地域的には北海道・東北地区 37.5%、関東地区 34.8%、中国・四国地区 35.3%とある。都区部・指定都市においては 75.0%と未回答もなく、ないものはないのだという徹底した回答である。

都区部・指定都市については、5-2の設問であると唯一公営で「ある」と高い数值を示した地域であり、設備の格差を物語るのであろう。

5-3の設問には未回答の数值も低く、全国的に保育所が配膳場所については、確保されていることがわかる。(高橋)